

中国のエネルギー第12次5カ年計画について

2011年3月に発表された中国の第12次5カ年計画綱要では、向こう5年間の経済成長率は7.0%と設定し、また、2015年のエネルギー消費の対GDP原単位を2010年比で16%、二酸化炭素排出を同じく17%削減することを明確にしている。この数字から推定すると、2015年の中国の一次エネルギー需要は26.5億toeとなり、2011～2015年の一次エネルギー需要の年平均伸び率は3.1%になる。

中国のエネルギー第12次5カ年計画（2011～2015年）は未だ発表されていないが、中国国家エネルギー局の銭智民副局長の説明によると、同計画は17分野のサブ計画（石炭、石油、電力、再生可能エネルギー、電力系統、石油・ガスパイプライン、エネルギー科学技術など）から構成され、エネルギー消費構造の最適化が中心になる。

また、2011年4月21日、「第7回エネルギー投資フォーラム」において、国家能源局計画司計画処の何永健処長は、「エネルギー第12次5カ年計画ではまず一次エネルギー消費を41億tce（石炭換算トン、28.7億toe）に抑える指標を策定する。うち非化石燃料は一次エネルギー需要の11.4%とし、その3分の2を水力発電に依存する。原子力発電については、2015年までに4,000万kW規模の原発建設を進めるという目標は据え置きになる」と述べた。

何永健処長は、「2015年の石炭消費は38億トン、石油は5億トン、天然ガスは2,300億 m^3 、非化石燃料は石炭換算で4.8億トンになる」「石炭換算で41億tceの指標は、2015年のGDP当たりエネルギー消費原単位が2010年より16%削減されること、GDPの年平均伸び率が8.5%になることから試算した」と説明している。さらに、何処長は、「中国の石炭・石油需要の現状から見て、この指標を達成することは困難であり、一次エネルギー需要指標が29.4億toeに引き上げられる可能性は高い」と追加説明した。

前掲の中国の第12次5カ年計画綱要の一次エネルギー需要量と国家能源局の説明を比べると、両者の差は2.2億toeに上る。2.2億toeは、2009年のブラジルあるいは韓国の一次エネルギー需要とほぼ同じである。また、一次エネルギーの年平均伸び率3.1%は、第11次5カ年計画期間（2006～2010年）の実績値である6.6%と比べはるかに低い目標が設定されている。

また、上掲の数字から2015年のエネルギー構成を計算すると、石炭が63.0%、石油が17.4%、天然ガスが8.0%、水力・原子力・その他が11.6%になる。石炭のシェアの減少と、天然ガス及び水力・原子力・その他のシェアの拡大が最大のポイントであると言える。

他方、今後5年間の中国の経済成長率について、IMFは年平均9.4%前後と予測しており¹、第12次5カ年計画綱要の7.0%や、国家能源局の示した8.5%より高い。成長率を年平均9.4%として試算すると、2015年の中国の一次エネルギー需要は最低でも30億toeに達するであろう。

(エイジラム研究所 首席研究員 張 継偉)

Asiam Research Institute <http://www.asiam.co.jp/>

¹ International Monetary Fund (IMF) 「World Economic Outlook (WEO)」 2011年4月